



◇融雪泥流減災の為の無人化施工現地試験

十勝岳は概ね30年から40年の周期で噴火しており、大正15年8月24日の噴火では融雪泥流が発生し、美瑛町、上富良野町で144名の死者、行方不明者が出ました。この災害を元に三浦綾子が「泥流地帯」を執筆し、読まれた方も多と思います。この泥流から人命を守るため、火山噴火緊急減災対策砂防計画が策定されており、噴火警戒レベル3程度で導流堤に着手し、工事中に噴火レベルが上昇し危険になれば、無人化施工を行うこととしています。

これまで、樽前山でも無人化施工の現地試験が行われていますが、今回、十勝岳山麓のより厳しい気象環境下で、無線装置、映像配信、機器の動作と課題確認、導流堤建設のサイクルタイム計測などを行いました。



2月15日説明会の状況



遠隔操作状況



無人で走行するクローラダンプ



遠隔操作でのブロック積み上げ

2月15日10時より、十勝岳火山砂防情報センター敷地内に設置された遠隔操作室において、無人化施工の説明会を開催しました。今回の説明会へは、事前に取材申し込みがあった報道関係7社のほか、建設会社等15社29人が参加し、冒頭、村上第2工務課長より十勝岳の噴火の歴史、開発局としての火山砂防事業、泥流をコントロールするための緊急減災事業必要性の説明を行い、報道各社や参加社からの質疑に答えました。その後、実際の試験現場に移動し遠隔操縦による無人機械の作業状況などを確認しました。

◇北野十線排水樋門工事現場見学会

1月14日（木）、鷹栖町にある学童保育施設「放課後児童クラブ カンタラモッチ」の児童11名、指導員3名を対象に、北野十線排水樋門工事現場見学会を開催しました。現場見学の前にオサラッペ川の名前の由来や樋門、釜場とは何か、その役割についてなどについて説明し、その後、工事現場に移動しました。工事現場では、実際に工事で使用しているバックホウに体験乗車し、運転の雰囲気を楽しんでいました。また、実際の工事現場では間近で見る樋門工事に興味津々の様子でした。



事前にクラブで説明



バックホウ体験乗車の順番待ちです



手伝ってもらって、ようやく乗車



足場から樋門工事の説明を聞きます

お問い合わせ

国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部 旭川河川事務所
〒079-8411 旭川市永山1条21丁目 TEL: (0166) 48-2131